

令和 4 年度補正予算による追加支援事業の概要

【福島県会津若松市】命を守るデジタル防災プロジェクト事業



デジタル技術を活用した市民生活の利便性向上及びICT産業集積を同時に推進する。特にデジタルを活用することで、利便性・持続性等を向上させる。
 今回、災害に備え、個別避難計画を家族・地域自主防災組織等へ共有、及び災害時に地域自主防災組織等への市民安否結果を共有するシステムを構築する。

目標 (KPI)

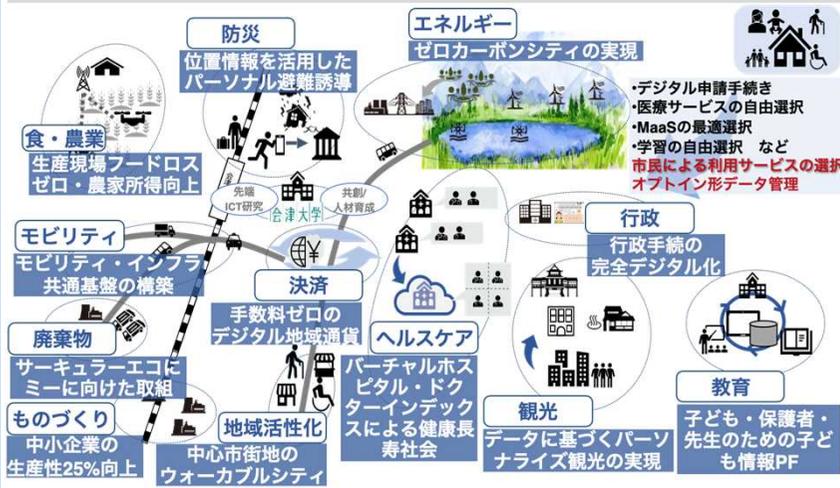
本事業は、計画全体KPIの一つである『地域ID登録者数の増加』に資するものと整理

目標	KGI/KPI	2030年目標値
市民参加率の向上	地域ID登録者数	50,000ID
地域の活性化	公示地価の伸び率	地方平均比+7%
持続性の確保	経常収支比率	90%未満

実行計画(全体)

スマートシティ構想の全体概要

12の分野において、多様な利用者を意識した包括的かつ包摂的なデジタル化を推進。また都市OS上での分野間連携を前提に推進。



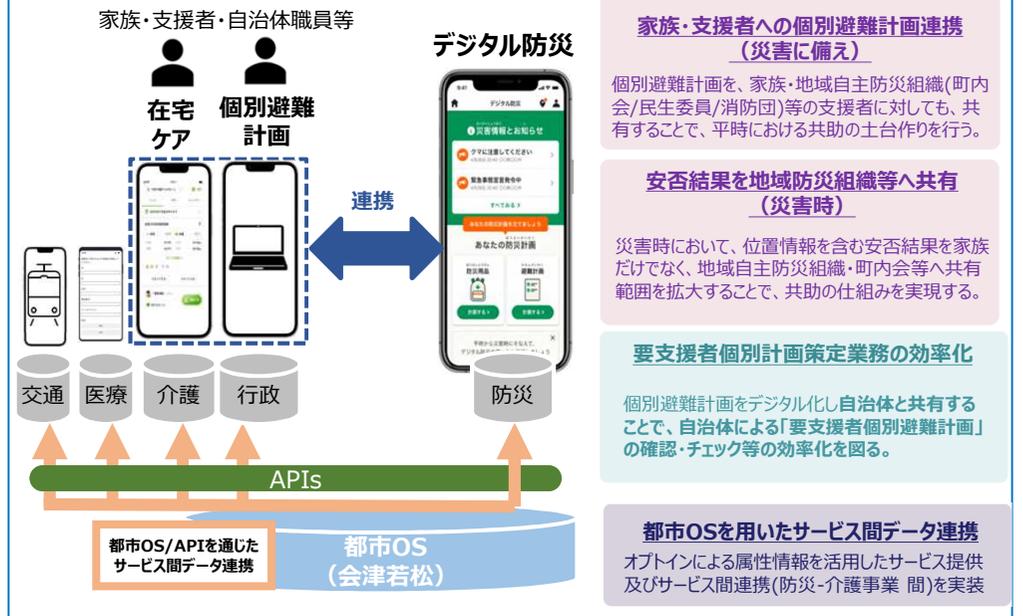
実証事業における体制

会津若松市におけるスマートシティ実行計画全体の推進体制は以下の通り。本事業は、防災WG関連主体で構成した会津デジタル防災協議会で実施



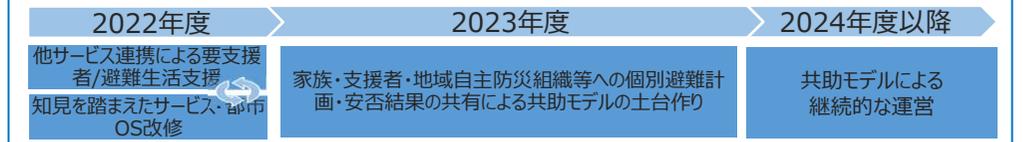
実証事業の内容

防災アプリ「デジタル防災」と都市OSを連携し、個別避難計画や災害時の安否結果を、家族や地域自主防災組織等へ共有するシステムを構築し、その効果検証を行うことで、共助の仕組みづくりを行う。



実証事業から実装までのスケジュール

2022年度までにデジタル防災・他サービス連携による要支援者/避難生活支援について実装済み。2023年度は実装機能を基に、ケアアール・要支援者個別避難計画管理システム連携を行うことで、個別避難計画の他分野における活用と共助の土台作りを実現する。



【埼玉県さいたま市】スマート・ターミナル・シティさいたま

駅を核としたウォーカブルで誰もが移動しやすい、人中心に最適化された都市空間・環境(スマート・ターミナル・シティ)の形成に向け、新市街地形成の進む美園地区において、交通量変化の想定に基づくシミュレーションを通じて大規模イベント時の交通施策を評価・検証するとともに、評価を踏まえた交通負荷分散化施策を試行することにより、市街地環境変化に対応したスマートプランニング体制構築を図り、エリマネDXを推進する。

実証事業に関する目標 (KPI)

	現況値(コロナ禍前)	目標値
シミュレーション回数	0回	(取組の中で実施)
交通負荷分散		
・ 自家用車分担率	33.9%	20%
・ 渋滞継続時間改善	(取組の中で計測)	(取組の中で計測)

実行計画(全体)

駅を核とした「スマート・ターミナル・シティ」



「市民のウェルビーイングな暮らしを実現する(スマートシティさいたま)」の実現に向け、駅を核としたウォーカブルで誰もが移動しやすい、人中心に最適化された都市空間・環境を構築。

施策① (モビリティサービスの充実)により、健康で環境にやさしい脱クルマ依存型生活行動を支え、地域回遊性を高めるとともに、

施策② モビリティと地域経済活動が連携した(ライブサポート型MaaSの構築)を進め、

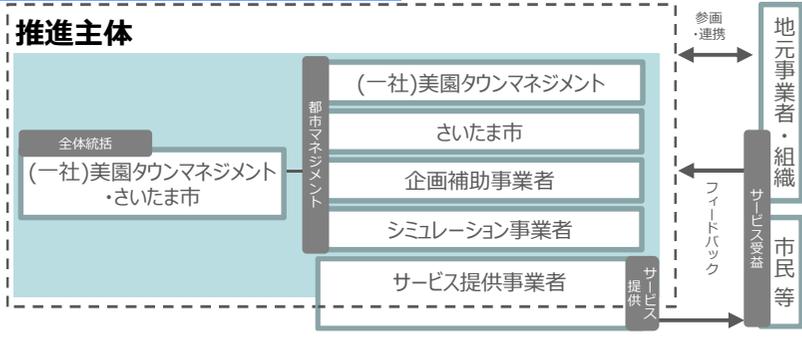
施策③ 各種サービスデータや都市データを活用した(スマートプランニングによるウォーカブルな都市空間・環境の形成)を促進する。

【先行モデル地区】

- **中心市街地型モデル** (高密度エリア・商業業務地ゾーン)
→大宮駅・さいたま新都心駅周辺地区
- **郊外住宅地型モデル** (中高密度エリア・住宅地ゾーン)
→美園地区

先行モデル地区での
実践・成果を
市内他地区等へ横展開

実証事業における体制



実証事業の内容

過年度実証成果等も踏まえつつ、施策③に関する実証を展開。

【実証】 地区スケールでのスマートプランニング体制構築に向けた運用検証 (郊外住宅地型モデル)

○GPSやAIカメラから取得した人流データ等を用いて、施策効果の事前評価およびその評価結果に基づいた施策実践を行い、その一連のプロセスの試行・検証を通じ、地区スケールでのスマートプランニング体制構築を図り、エリマネDXを推進する。

①人流・車流シミュレーション評価

・GPSデータ等を活用した人流・車流シミュレーションを実施。
・シミュレーションの中で、日常時/非日常時の各交通施策について効果が最大化される条件(空間・施設運用、サービス設計・運営等)を評価・導出。



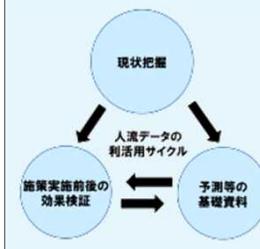
②シミュレーション評価に基づく施策実験

・①の評価結果を踏まえながら、埼玉スタジアム2002でのイベント開催時の交通負荷分散化に向けた施策を実施し、移動データ・AIカメラ等により効果測定・検証。



③プロセス検証

・①～②のプロセス評価・検証により、地区スケールでのスマートプランニングプロセスの定着・実装に向けた課題・方策等を抽出・整理。



実証事業から実装までのスケジュール

施策	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度～
③スマートプランニングによるウォーカブルな都市空間・環境の形成	スマートプランニング高度化(施設・街区スケール)			先行モデル地区での実装	市内他地区・他都市へ
				地区スケールの取組へ拡充(エリマネDX)	実装
				取組連携	
				交通負荷分散化施策 実証実験	

【東京都千代田区】大丸有エリアMICE事業

大丸有スマートシティビジョン・実行計画にて定めた区域の発展的課題である非日常のポテンシャルの拡大は、MICE期間中のより充実した大丸有体験の提供を通じて、エリア価値向上に取り組むとしている。本実証実験では、**エリアマネジメントによるデータ利活用にて「会議参加者群/参加者志向と豊かなエリアコンテンツのマッチング率の向上」を図り、都市のアップデートを目指す。**

実証事業に関する目標 (KPI)

MICEサービス利用者からの満足度50%以上

実行計画(全体)

「エリアマネジメントのデジタルトランスフォーメーション」モデルの実現

2030年のSDGs達成に向け、都心の成熟した持続可能な発展を、イノベーションとテクノロジーによる仕組みの再編・構築により、エリアマネジメント・公民協調で実現を目指す。

■ 対象区域のビジョン

1. 時代をリードする国際的なビジネスのまち
2. 人々が集まり賑わいと文化のあるまち
3. 情報交流・発信のまち
4. 風格と活力が調和するまち
5. 便利で快適に歩けるまち
6. 環境と共生する持続可能なまち
7. 安全・安心なまち
8. **新技術やデータを活用するスマートなまち**
9. 地域、行政、来街者が協力して育てるまち

■ 対象エリア :

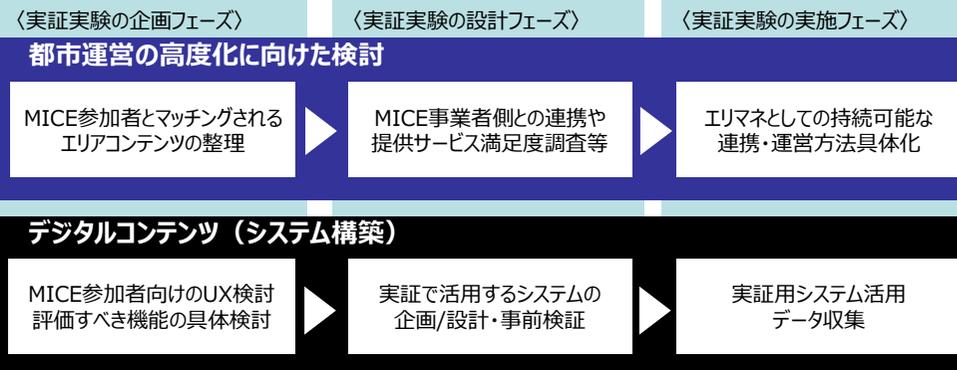


■ 区域の発展的課題とその対応方針

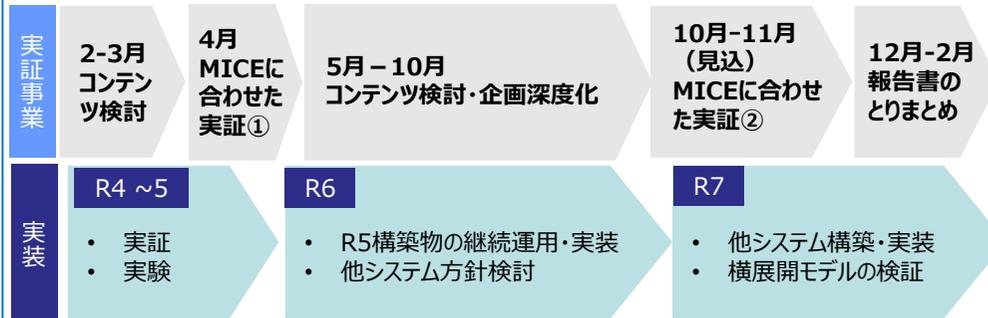


実証事業の内容

MICE会場からエリアへしみ出し・エリアを味わい尽くしてもらうことを掲げ取り組む



実証事業から実装までのスケジュール



実証事業における体制

関係者	役割
官民連携	大丸有地区スマートシティ推進コンソーシアム 東京都・千代田区・大丸有まちづくり協議会 提案主体
企画開発体制	大手町・丸の内・有楽町地区まちづくり協議会 -スマートシティ推進委員会- 幹事、推進統括 NTTデータ スマートシティ推進委員会:都市OS関連の検討受託・エリアMICEシステム機能実装担当
エリアマネジメント連携	DMO東京丸の内 MICE事業の企画、推進 MICE関連データ提供

【愛知県岡崎市】多機能カメラセンサーによるデータ利活用実証事業

今後の東岡崎駅整備や公共空間の更なる利用活発化に向けて、多機能カメラセンサーの導入による柔軟なデータ取得手法を構築し、各事業者と連携したデータ分析及び活用により乙川リバーフロント地区の更なる活性化を図る。

実証事業に関する目標 (KPI)

実証カメラカウント人数 6,000人
 データ活用まちづくり課題 3課題
 イベント来場客増加率 1.1倍

実行計画(全体)

乙川リバーフロント地区におけるウォカブルシティの構築にむけた公共空間の整備・活用に合わせてスマート技術の導入を着実に推進し、各拠点におけるにぎわい創出を図る。



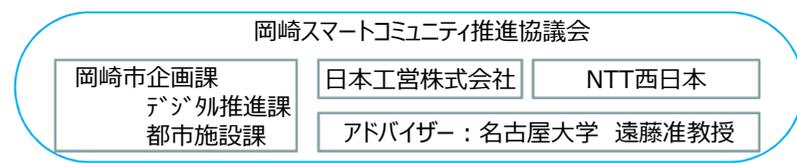
実証事業の内容

多機能カメラセンサーの導入により、駅周辺整備期間中やカメラ常設不可の公共空間（河川）にて、柔軟にデータを取得し、既存固定カメラデータ等と合わせエリアでデータ活用を検討



- 賑わい増加と渋滞緩和の両立にむけたデータ活用実証
 - ・河川空間利用の情報発信等マネジメント実証
 - ・駅工事中も公共交通分担率を高める方策検討
- 現場混雑状況を勘案した「駅広場マルチ利用」にむけた機能検討

実証事業における体制



実証事業から実装までのスケジュール



【京都府精華町・西木津地区】 デジタルツインを活用した健康・にぎわい促進施策の効果検証事業

早期からの未病・フレイル対策による住民の健康促進に向け、ウェアブルデバイスを通じて収集する住民バイタル・行動データをデジタルツイン上でデータ分析・シミュレートし、健康・賑わい促進の観点からより望ましい行動変容を促す施策の効果検証を行う。

実証事業に関する目標 (KPI)

- ✓ 外出増加率：
サービス運用開始時比30%増

実行計画(全体)

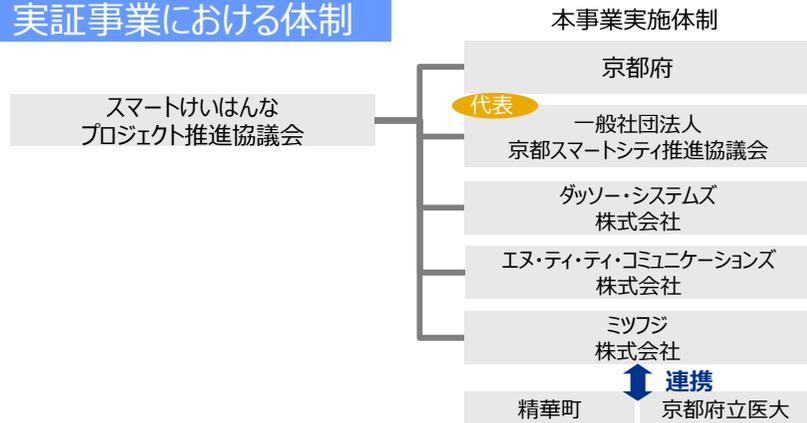
誰もが安心・安全に暮らせる都市を目標に、
デジ田事業と連携しながら取組を加速。

目指す目標・ビジョン

誰もが安心・安全に暮らせる、
持続可能な「誰一人取り残さない」都市

交通	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 日常生活で利用する商業施設、医療機関等と住宅地をつなぐ乗合型のデマンドバスを運行 ✓ 通勤、買物、通院等の移動手段のマイカーから公共交通機関への転換を促進
健康 賑わい	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 地場企業発・国産ウェアブルデバイスを核に、地域店舗と連携し民間ポイントを活用した行動変容促進サービスを展開 ✓ 住民の健康行動と地域店舗の活性化を両立
防災	<ul style="list-style-type: none"> ✓ デジタルツイン×パーソナライズド避難誘導により住民の正常性バイアスを解消し、誰一人取り残さない、安心・安全な都市の実現を目指す

実証事業における体制



実証事業の内容

デジ田事業で導入するウェアブルデバイスより収集する各種生活データをデジタルツインで分析・シミュレート／行動変容促進施策(健康×消費)の検証



実証事業から実装までのスケジュール



【兵庫県加古川市】誰もが豊かさを享受できる加古川スマートシティ推進事業

周辺自治体との都市間連携により見守りタグ検知アプリや浸水センサーの広域展開等に関する検証を行うとともに、加古川駅周辺エリアにおいてAIカメラ等からの取得データやPLATEAUを活用したスマートプランニングの検証を行う。

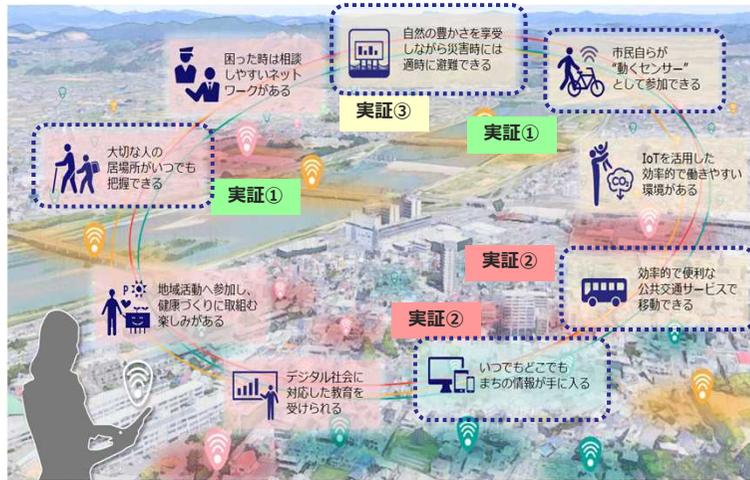
実証事業に関する目標（KPI）

- 【実証①】地域の安全対策への満足度 65% (R8年度)
- 【実証②】加古川駅周辺の都心魅力の満足度 60% (同上)
- 【実証③】地域の防災体制への満足度 65% (同上)

実行計画(全体)

誰もが豊かさを享受できるスマートシティ加古川を目指し、見守りサービス等の実装を推進。

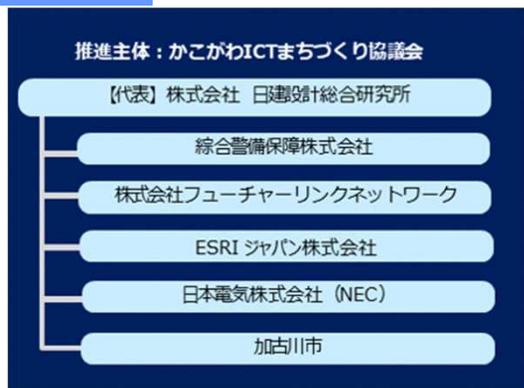
- 1 市民のQOLや利便性を向上するサービス
- 2 都市機能の強化や都市課題の解決
- 3 デジタル行政の推進



実証事業の内容

	【実証①】 広域見守りサービスの実装に向けた機能強化・サービススキーム構築	【実証②】 センシング技術による人流・モビリティ情報を活用したスマートプランニングへの展開	【実証③】 浸水センサー(ワンコインセンサー)の広域設置・都市OSを含めた共同利用
実施内容概要	見守りタグ検知アプリを活用した広域見守りサービスの広域実証・サービススキーム構築	AIカメラ等のセンシング技術による加古川駅前エリアの人流等自動計測、モビリティのデータ活用と有効な情報提供	浸水センサー(ワンコインセンサー)の広域設置、収集データ等の共同利用(ダッシュボードでの可視化等)
実証イメージ	<ul style="list-style-type: none"> 見守りタグ検知アプリの広域実装に向けた『ボランティア貢献度把握』に関する機能検討・構築等 <p>見守りタグ検知アプリ</p>	<ul style="list-style-type: none"> 高度化カメラ(人流測定AI)等の収集データを活用した人流・車両のダッシュボード可視化及び3D都市モデルへの重畳・分析 <p>高度化カメラと3D都市モデル</p>	<ul style="list-style-type: none"> 近隣自治体への同センサー設置、取得データを一元集約して広域防災の実装可能性を検証 <p>ワンコインセンサーの設置イメージ</p>

実証事業における体制



実証事業から実装までのスケジュール

	～R4	R5上期	R5下期	R6	R7
実証①	アプリ開発	実証自治体募集	実証実施・都市OS機能更新	成果取りまとめ	関係者調整
実証②	高度化カメラ設置	センサ等設置・R4データ可視化	データ取得・分析		サービス開始
実証③	センサ設置	設置場所検討 実証自治体募集	設置		データ可視化・都市OS共同利用検討
					継続稼働(実装)
					継続稼働(実装)

【和歌山県すさみ町】観光拠点・防災道の駅中心の複数分野における高度化・自動化事業

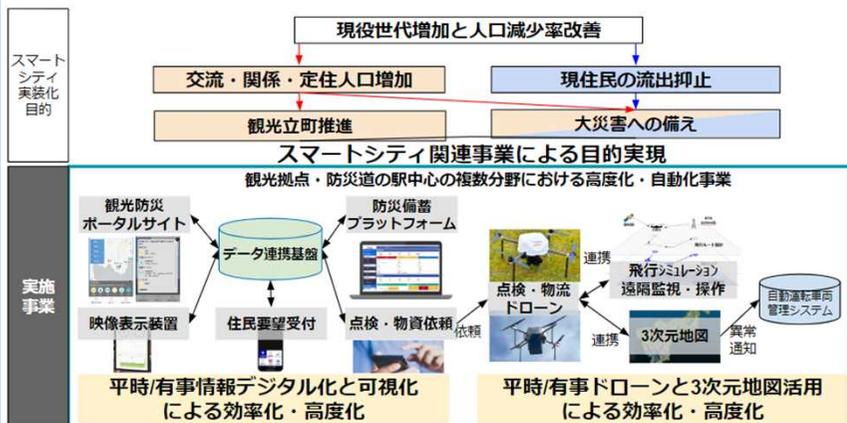
・南海トラフ地震や大雨等のリスク、高齢化・人口減の人手不足、観光客への情報発信等の課題解決のため、ドローン活用やポータルによる情報発信等により、安心安全で快適な町づくりを推進。今回は、ドローンの遠隔監視及び操作等の検討を実施。

実証事業に関する目標 (KPI)

- ・遠隔ドローン運航での現地専門作業員の削減 (6名→2名)
- ・安全なドローン離発着拠点の必要要件確認と利用マニュアル化 (令和5年度末までに初版作成)
- ・道路異常アラームのAPI連携での必要な条件整理 (令和5年度末までに作成)

実行計画(全体)

観光分野における「観光立町推進」、防災分野における「大災害への備え」を、ICT技術を活用したデジタル化・自動化・効率化により推進する。



実証事業の内容

実証技術①：ドローン点検を遠隔から監視及び操作を検証

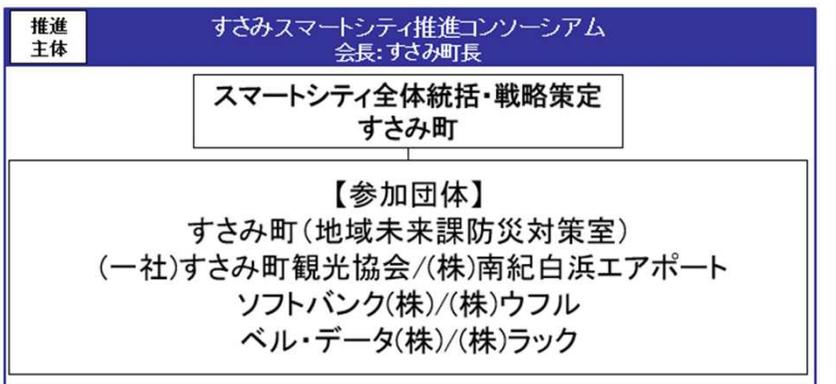
実証技術②：安全なドローン離発着拠点の要件を検討

実証技術③：ドローンによるレーザー測量とドローンシミュレーション用に準備した3次元地図を比較することで、道路上の障害物を検知し、自動運転システムとの連携を検証



実証事業における体制

すさみスマートシティ推進コンソーシアムにて実証事業を推進する



実証事業から実装までのスケジュール・2025年実装を目指し事業を推進

	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
スマートシティ関連事業					
防災道の駅中心の防災対応高度化・自動化事業		○令和3年度取組み実績/知見連携 【防災分野】実証実験			
観光拠点・防災道の駅中心の複数分野における高度化・自動化事業		引き継ぎ	【防災・観光分野】実証実験	商用開発	社会実装
データ連携基盤		基本設計/試験環境構築	実証、基盤構築		社会実装